

CLEAN &
CREATIVE

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

CSR報告書2022

人と、社会と、地球の
みらいをカタチに



みらい建設工業

CONTENTS

企業理念

会社概要	2
品質・環境マテリアリティ	3
トップコミットメント	4
企業理念	12
環境活動及びCSRに関する取り組み経過	12
全社組織	13

品質環境活動（SDGs 活動）

SDGsの取り組み	14
主な完成工事	15
環境方針	37
エコファースト企業としての約束	38
環境目的・目標・結果	39
品質・環境活動	42
自社の環境教育	43
自社の環境改善	45
地域社会貢献	48
働き方改革	53
自社の環境活動	55
カーボンニュートラル	59
事業所一覧	62

編集方針

この報告書は、みらい建設工業に関係する皆様に、社会環境活動をできるだけ分かりやすく、お知らせすることを目的として作成しています。
当社は、社会のインフラ整備を生業とする建設会社であり、お客様の満足する高品質の製品を提供し、自然環境の創造と保全に努め、社業の発展を通じて社会に貢献することを使命とする環境にやさしく創造的な会社と考えています。
本報告書を通じて、みらい建設工業の社会環境活動をご理解頂き、忌憚のないご意見を頂けますようお願い申し上げます。

報告書の対象期間

- ・2022年度
- ・2022年度の写真等を掲載しています。
- ・発行月：2023年7月
- ・作成部署：安全品質環境本部 品質環境部

会社概要

- 商号 みらい建設工業株式会社
- 本社 〒108-0014 東京都港区芝四丁目6番12号
- 代表者 代表取締役社長 石橋 宏樹
- 資本金 25億円
- 建設業許可 特定建設業許可 国土交通大臣許可(特-3) 第5678号
- 登録・許可 建設コンサルタント登録 国土交通大臣登録(建01)第2034号
測量業者登録 国土交通大臣登録 第(11)-6744号
宅地建物取引業者登録 東京都知事登録 第(5) 第81837号
一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第51761号
産業廃棄物収集運搬業許可 大阪市長許可 第6600109774号
- 認証 ISO 9001:2015 JUSE-RA-1437
ISO 14001:2015 JUSE-EG-130
ISO 45001:2018 JUSE-OG-034
- 売上高 269億円(2023年3月)
- 従業員数 309名(2023年3月現在)
※参考 385名(2023年3月現在 みらいグループ全体)



品質・環境マテリアリティ

脱炭素社会
自然共生社会

循環型社会
働き方改革

再生可能エネルギー、環境配慮型事業への取組み

- ①外洋大深度における「新技術開発・技術提携」
- ②陸上風力・太陽光発電事業
- ③「カーボンリサイクル事業」「化石燃料に代わるエネルギー供給施設整備事業」

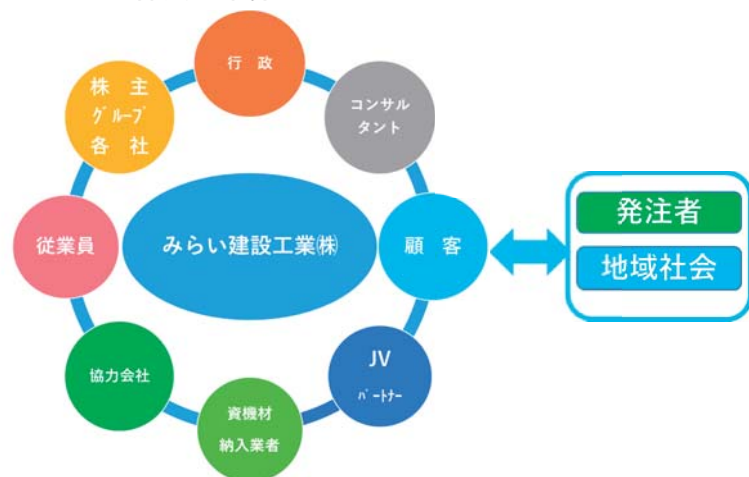
社員のエンゲージメント向上

- ①働き方改革への継続的な取組み（社内書類簡素化、時短・有給休暇取得の推進）
- ②経営陣と社員代表が定期的な意見交換を行い、労使ともに納得感のある経営改善への取組み

社員のスキルアップ

- ①教育の拡充・見直しによる社員能力向上への取組み（会社に貢献できる資格取得に対するサポートの拡充など）
- ②社員のジョブローテーションによるスキルアップへの取組み（ゼネラリスト・スペシャリストの棲み分け、評価基準などを再構築）
- ③若手への技術の伝承を推進する取組み

品質・環境におけるステークホルダー



トップコミットメント

トップクラスの ホワイト企業への挑戦

～ 미래の未来へ ～



西川友康監査役

石橋宏樹代表取締役社長

石橋社長と西川監査役とのトップインタビューをご紹介します。

2023年6月1日

〈監査役〉
社長に就任されて1年経過され、建設業界を取り巻く環境が厳しくなっている中で2022年度経常利益は過去5年では最高益を計上されましたが、トップとして取り組まれたことと、その手応えについてお聞かせください？



〈監査役〉
建設業である当社の社会貢献の使命として「国土と国民の命を守る」と「事業を通して社会に貢献すること」を社長メッセージとして発信されていますが、社長の思いについて更に具体的に聞かせください？



〈監査役〉
近年は異常気象が異常と呼べないほど頻繁な集中豪雨や局地的大雨、また地震も各地で頻発しており、防災・減災が叫ばれるようになりましたが、企業としての取り組みについてはどのように考えてますか？

〈社長〉
新型コロナウイルス感染が拡大した2019年度を境に、売上高が300億円を下回っています。特に民間工事の落ち込みが大きく、2021年度までは、売上の減少に伴い利益も低迷していました。昨年度は、官庁工事においては、当社の技術者がスライド条項による設計変更獲得に真剣に取り組みました。官庁工事の比率が上がったことも重なり、資材高騰の影響を最小限に食い止めています。民間工事でも、早期の契約・早期の着工に力を入れており、値上がり前の資材購入に努めています。こういった努力が増益に繋がったと思います。民間工事では、新型コロナウイルス感染症の収束に伴って、事業量の回復が見込まれています。当社では、民間に特化したソリューション営業本部を新設し、再生可能エネルギー事業や宅地開発、民有護岸の維持更新事業などに力を入れていきます。今期以降に具体的に動き出す現場もありますので、手応えは充分に感じています。

〈社長〉
日本は、地震や台風などの自然災害が多い国です。自然災害の発生により、これまでに多くの尊い命が失われています。土木業界の第一の使命は、防災・減災事業により、「国土と国民の命を守ること」です。土木を英語では「Civil engineering」と表します。Civilは直訳すると「公共の」、「国民の」といった意味があります。当社が行っている防波堤工事や河川護岸工事などは、まさしく、日本の国土と国民の命を守っています。第二の使命は「事業を通して社会に貢献すること」です。港湾、空港、高速道路、鉄道、そして住宅や公園、レジャー施設など、人々が安心して生活できる、豊かな暮らしの基盤を築いています。我々が暮らす社会の中で、役に立つ仕事をするのは、仕事の喜びに繋がります。

〈社長〉
環境破壊により、異常気象が多発しています。国が進める、「防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策」により、防災・減災のための事業量が増えています。平常時に自然災害に備えて対策をとることが大切です。私は、1983年の日本海中部地震と2011年の東日本大震災で、津波を経験しました。自然災害が発生してしまった場合は、素早い災害復旧が求められます。東日本大震災では、津波発生直後の誰も居なくなった港で、警察や自衛隊と我々建設会社だけが、黙々と復旧作業を行っていました。自然災害に対しては「災害に備えること」、発生した場合は「素早い災害復旧」が重要であり、当社はその両方を担っています。

〈監査役〉
地球環境や社会的な諸問題がクローズアップされる中、企業のCSRの取り組みには、ますます注目が集まっています。当社では、こうしたCSR的な視点をどのように日常のビジネスに反映させていますか？



〈監査役〉
エコ・ファーストの認定は、今お話し頂いた当社の設定目標が、認定のトップランナー要件、「先進性・独自性・波及効果」の総合的判断で認められたということですね。認定企業66社の1社であることは、人々の暮らしを様々な場面で支えながら、環境保全に取り組む先進企業ですね？

〈監査役〉
中期経営計画の「事業成長」における重点施策の一つとして掲げた再生可能エネルギーを含む環境配慮型事業への取り組み状況を教えてください？

〈社長〉
当社は、今年の4月に、厚生労働省からエコ・ファーストの認定をいただきました。第1に「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現への貢献」、第2に「循環型社会への実現への貢献」、第3に「生物多様性および生態系保全に配慮し自然共生社会への貢献」を目標に掲げています。具体的には、民有護岸の維持更新事業では、点検から設計、維持更新をパッケージ化した「みらい安心パック」をお客様に提案しています。また、職場環境の改善のため、太陽光発電付きの現場事務所や快適トイレを揃えた「みらいスタンダード」の推進をはかっています。さらに、外国人技術者や女性技術者の採用を推し進めており、差別のない企業形成に邁進しています。環境対策については、かつては「やらされている感」がありましたが、現在は多くの企業がビジネスチャンスと捉えています。当社は、業界をリードする企業として、さらなる地球環境の保全に努めていきます。

〈社長〉
認定企業66社の顔触れを見ると、日本を代表する企業が大半を占めています。ゼネコンの認定企業は大手や準大手などの6社、マリコンでは当社だけが認定されています。当社は、再生可能エネルギー分野においても、太陽光・風力・海流などの発電事業に、施工業者として積極的に参画しております。脱炭素社会の実現のため、CO2削減の対策を講じていかなければなりません。また、循環型社会の実現に向け、廃棄物の抑制や再資源化を推進し、現場での環境パトロールを定着させます。更に生態系保全のため、海洋汚濁防止やボランティア活動・環境教育に積極的に取り組みます。こういった取り組みにより、ゼネコンやマリコンの中でも、環境保全をリードする企業であり続けたいと思っています。

〈社長〉
当社では、これまで施工経験がなかった陸上風力発電に取り組んでいます。現在、国内の数か所での施工検討業務を受注し、今期内での着工を目指しています。また、経験が豊富な太陽光発電では、自己託送型太陽光発電事業に、今期内での着工を予定しています。実証試験段階の海流発電は、引き続き積極的に取り組むつもりです。脱炭素の新技術として、CCUS事業については、施工計画作成業務を受注しており、カーボンニュートラル事業への足掛かりにしたいと考えております。

〈監査役〉

中期経営計画の組織経営の重点施策の一つとして掲げた社員のエンゲージメント向上の取り組みについても教えてください。社長は支店や現場に精力的に足を運んでいらっしゃるんですよね？

〈社長〉

「エンゲージメント向上」の為の取り組みのポイントは、「人事評価制度の見直し」、「社員と会社幹部との対話・意見の吸い上げ」、「OJTを含む教育」の3項目の推進が不可欠であると思っています。人事評価制度の見直しについては、2022年度から結果よりもプロセス評価のウェイトを上げ、評価シートを改訂しました。社員からの要望であった「評価結果のフィードバック」と「直属の上長の意見の反映」のために評価者の指導も強化しています。2021年度に設置されたエンゲージメント委員会で、経営層と社員の意見交換の場が必要との意見をもとに、2022年度に「みらいの未来を考える会」を立ち上げました。また、社員から、会社を良くする意見を聴取する手段として、メールによる「Suggestion box」を開設し運用中です。私自身も、社員との対話を大切にしています。支店や現場に足を運び、社員の皆さんと直接接し、問題点や提案を聞くことは最大の収穫であり、私自身の力の源泉となっています。当社では、技術職の階層別教育に力を入れてきました。2022年度から、事務職と営業職の階層別教育を始めました。今年度は、ベテラン技術系社員による教育の実施により、実践に近い教育を計画しています。また、OJT教育の一環として、若手社員中心で、採用ホームページや採用ツールの更新を担当してもらっています。仕事を任される喜びと責任感や交渉力を磨いてほしいと考えています。

〈社長〉

この会は、経営陣と若い社員との意見交換によりエンゲージメント向上を目指すために、本社執行役員とみらい建設ユニオンが参加してスタートしました。会を重ねるうちに、部門長や中堅層、みらい小町の会からも参加していただき、より幅広い意見を聞くことが出来るようになりました。若い社員からは出なかつた親の介護の問題も出てきており、活発な意見交換の場となっています。実際に、対応策を検討し、可能な限り早く対応することで、魅力ある会社に変えていきたいと思っています。

〈監査役〉

社長が発案された「みらいの未来を考える会」に若手中堅社員もメンバーに加えられましたが？



〈監査役〉

SDGsや価値観の多様化、働き方改革等から、改めてウェルビーイング経営が目立っていますが、石橋社長の経営はまさにウェルビーイング経営の実践ですね？



〈監査役〉

高松コンストラクショングループの中期経営計画では、組織経営の基本方針として「トップクラスのホワイト企業への挑戦」が掲げられています。グループ基本方針に基づいての当社対応についてお聞かせください？



〈西川監査役、インタビュー後の一言〉

社員が肉体と精神面、また社会的な面でも満たされるように組織の環境を整えていけば、お話の通り、社員一人一人の仕事への意欲も高まりますし、エンゲージメントもさらに高まっていくものと期待しています。



〈社長〉

私は、社員の一人一人が、仕事上で使命感と達成感を味わうことで、モチベーションを上げて仕事をしてもらえば、結果的に良い会社になると考えています。その為の障害となるものは、我々経営陣が改善していかなければなりません。西川監査役との面談時にあったウェルビーイング経営について掘り下げてみて、私としても、当社の考え方に非常にマッチした考え方だと思いました。心身ともに健康で仕事に熱意を持つ社員が増加すれば、生産性向上、離職防止や経営コストの削減、企業価値の向上などに期待が持てます。先ず、魅力ある会社となる下地を作り、発信することで、有望な人材の採用に結び付けたいと思います。

〈社長〉

「トップクラスのホワイト企業への挑戦」では、「働き方改革の推進」と「エンゲージメントの向上」が重要であると考えています。2024年度から、建設業においても、時間外労働の罰則付き上限規制が始まります。生産性向上策や書類の簡素化により、個人ベースでの4週8休を実現させ、昨年度から始まった65歳定年制によるベテラン社員の活躍により時間外勤務の縮減を実現させます。また、ハラスメントを無くすため、通報制度を周知し、教育を実施し、差別のない風通しの良い風土を築き上げます。エンゲージメントの向上については、全ての社員の意見を聞く耳を持った会社でありたいと思っています。会社として出来ること、出来ないことをはっきりと伝え、合意した提案は素早く実行し、会社の発展と社員の幸せを両立させることが、トップクラスのホワイト企業への道だと思っています。



「質の高い教育をみんなに」
 「ジェンダー平等を実現しよう」
 「働きがいも経済成長も」

石橋社長と若手女性職員とのコミュニケーション

女性職員のライフイベントに合わせた働き方



女性職員は
何を望んでいるか
聞いてみました。



女性の活躍に期待！



「働きがいも経済成長も」

石橋社長と若手職員とのコミュニケーション

上司とのジェネレーションギャップの向き合い方

どんなギャップが
あるのかな？



会社がより良くなるための提案を
『Suggestion box』へ



「働きがいも経済成長も」

石橋社長と中堅部門長とのコミュニケーション

2024年からの時間外労働の上限規制に対する取り組みについて

「上限規制」
どうする！

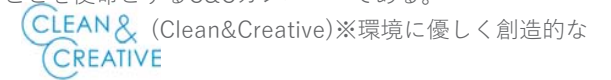


どんな時でも
コミュニケーションが大切！
「エンゲージメント向上」
へつなげよう



企業理念

- 経営目標 我が社にかかわる多くのステークホルダーに「より高い満足感」を感じてもらえるような、ユニークなグッドカンパニーを目標とする。
- 経営姿勢 経営目標達成のため、よりビッグでよりハイプロフィットな企業を目指す。ただし、自然や社会との共生を計り、不正や不当な手段による社益の追求は勿論、浮利を追うなど利益第一主義に陥ってはならない。
- 存在意義 我が社は創意工夫と確かな技術のもと、自然環境の創造と保全に努め、お客様の満足する高品質の製品を提供し、もって社業の発展を通じて社会に貢献することを使命とするC&Cカンパニーである。



品質方針

みらい建設工業は、持続可能な社会の構築に向け、「創意工夫」と「確かな技術」の経営姿勢のもと、設計・施工及びアフターケアに至るまで、業務の質の向上に努め、顧客の満足する品質の製品を提供すると共に、高質な社会資本の整備に貢献します。

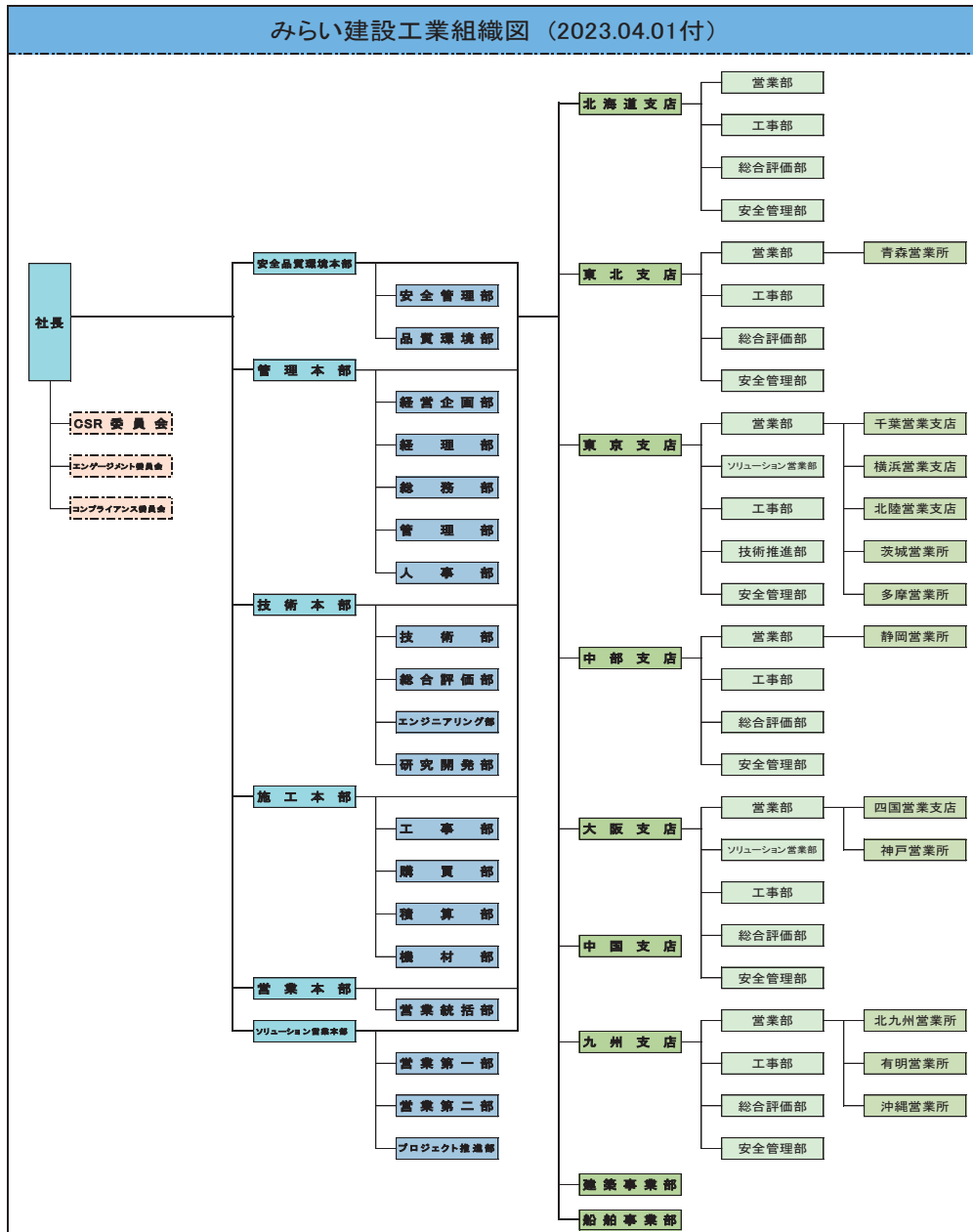
環境活動及びCSRに関する取り組み経過

- 2003年11月 ISO14001認証取得(本社・9支店、土木構造物の設計・施工、アスファルト合材の製造・販売)
- 2017年12月 ISO14001定期審査及び、移行審査
- 2018年 3月 「CSR報告書2016」の発行
- 2018年 8月 ISO14001更新審査
- 2020年 5月 「CSR報告書2019」の発行
- 2020年 7月 ISO14001定期審査
- 2021年 6月 ISO14001更新審査
- 2022年 6月 「CSR報告書2021」の発行
- 2022年 7月 ISO14001定期審査
- 2023年 7月 「CSR報告書2022」の発行

マネジメントシステム活動状況

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| ① 外部審査 | ② 内部監査 |
| 環境マネジメントシステムの更新審査(取得後18年目)を受審しました。 | 実施日(定期監査) : 2022年11月1日~11月25日 |
| 実施日 : 2022年7月11日~7月13日 | 総監査数 : 14件 |
| 認証登録機関 : (一財)日本科学技術連盟 | 監査結果 : 軽欠点……0件 |
| 審査結果 : 軽微な不適合……0件 | 重欠点……0件 |
| 重大な不適合……0件 | 勧告……3件 |

全社組織



SDGsの取り組み



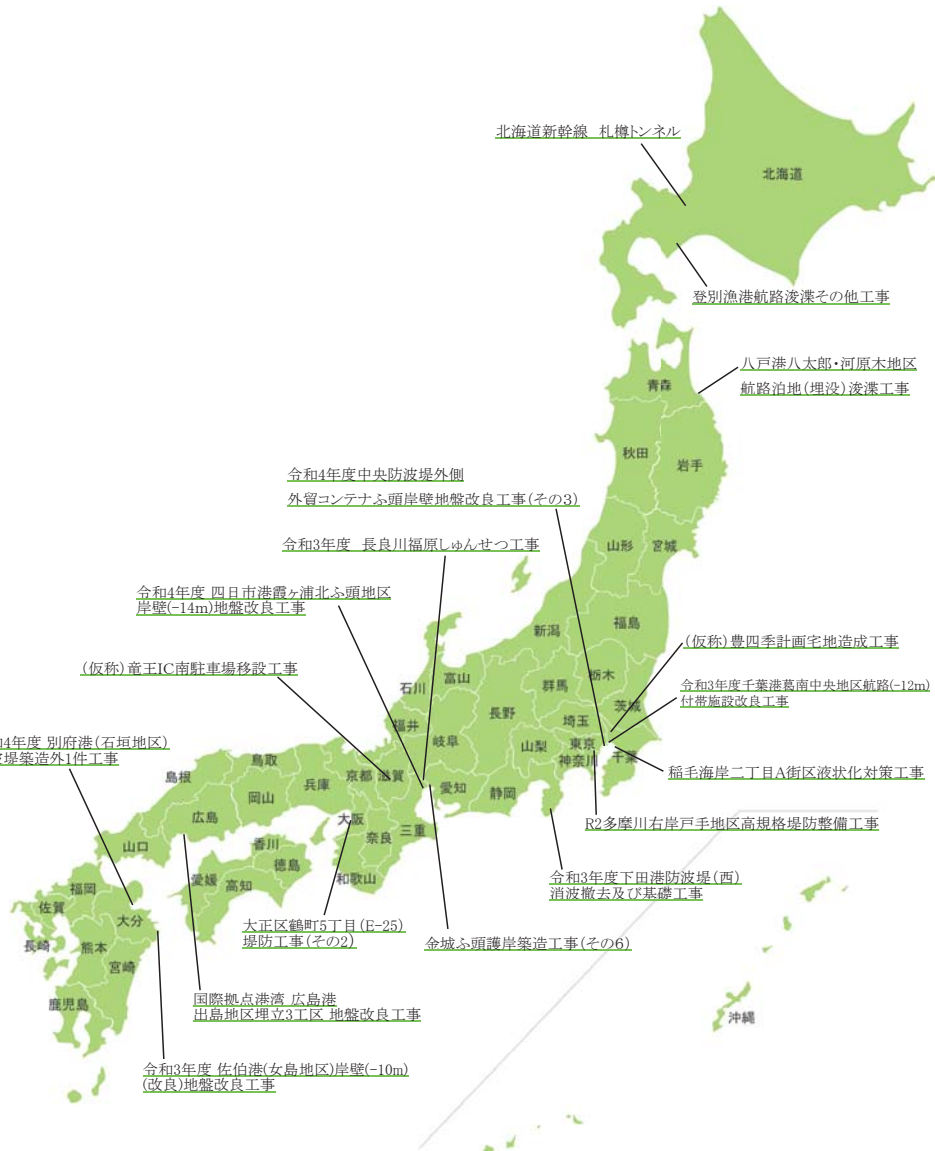
みらい建設工業は「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」というSDGsの達成に貢献できるように積極的に取り組んでいきます

	<p>【作業所】</p> <p>(1)環境法令順守</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境関連法規制の特定・周知 産業廃棄物適正処理：電子マニフェストに続き電子契約の導入を推進 <p>(2)循環型社会への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生資源の有効利用(ISO14001：再資源化率目標設定) <p>(3)地域への環境負荷の低減および汚染の防止、地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 振動・騒音・粉塵の低減、大気汚染・水質汚染防止(汚濁防止枠・防止膜の設置、周辺海域の汚濁測定) 地域の環境保全としてクリーン活動(現場周辺の清掃・草刈り等)の実施、豪雨等による流木等漂流物 事業場周辺環境により、周辺環境や生き物の保全活動(希少種の野鳥等保護、生息地の整備等)等を通じた地域環境への配慮 自然環境への取り組み内容を竣工検査時に報告 <p>(4)環境関連の緊急事態対応訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業船等よりの油流出の緊急対応として緊急用油液処理キットを配置 緊急事態対応訓練の実施による対応手順(手順書)の確認を着工後早期に実施 <p>(5)その他の環境関連活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業所環境の改善 快適トイレ(男女別)・移動式トイレ(車上)、分煙室等の設置 熱中症対策、コロナ対策 資源有効利用：間伐材を利用した製品(工事掲示板、工事看板等)の使用 <p>【本社・支店】</p> <p>(1)法令順守の取り組み：産廃の適正処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マニフェストの導入に続き、産廃電子契約システムの導入 <p>(2)本社および支店安全環境パトロールの実施</p> <p>(3)地域環境への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーン活動(自治体等の活動への参加) <p>(4)パートナーシップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 協会会社との安全環境活動の実施(合同パトロール等) 各種団体・協会活動への参加 <p>(5)環境教育・環境活動水平展開の実施(持続可能な開発のための教育(ESG)の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 階層別社員教育における環境関連教育 環境関連ポスター等の配布 今後の取り組み：環境関連情報の収集、整理、情報提供 <p>(日建連環境ホームページ等の活用、展示会・イベントへの参加等)</p> <p>【カーボンニュートラル】</p> <p>温室効果ガスの排出量の削減・・・2030年度までにCO2排出30%削減推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー事業への取り組み 建設工事においてCO2排出削減に関連する技術の利用、有効な技術の開発推進への取り組み 自然エネルギー活用、低燃費型施工機械・低燃費型連絡車両導入、使用電力削減による温室効果ガスの削減を推進します。
--	--

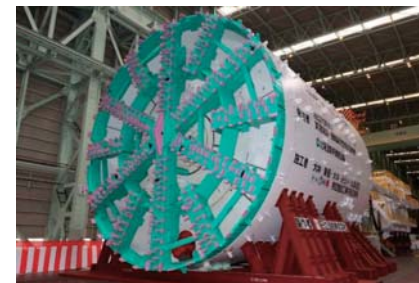
主な施工工事・完成工事



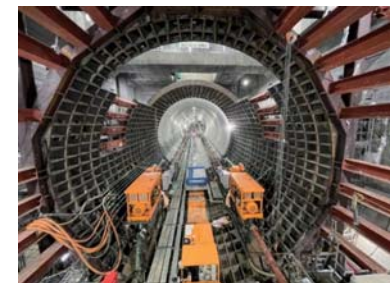
北海道支店 北海道新幹線 札幌トンネル



北海道新幹線 札幌トンネル全長約26kmのうち、札幌市街地地下約8.4kmをシールド工法でトンネルを造っています。
 ※ICT施工実施
 ・UAV(ドローン)を活用した3次元測量で生産性向上



▲シールド機（直径12.09m）を使用して掘削していきます。



▲施工途中の様子



漁港に出入りする船舶の航路を整備するためにグラブ浚渫船で約10,000m³掘削しました。

※ICT施工実施

- ・マルチビームを使用した深浅測量による3次元施工管理で生産性向上
- ・ソーラシステム使用によるCO2排出削減



八戸港に出入りする船舶の航路及び錨泊地を整備するためにポンプ浚渫船で約100,000m³掘削しました。

※ICT施工実施

- ・マルチビームを使用した深浅測量による3次元施工管理で生産性向上
- ・水中を可視化できる4Dソナー使用による浚渫送泥管の保全確認
- ・ソーラシステム使用によるCO2排出削減



約6km先の浚渫船から送られてくる浚渫土砂投入箇所です。将来、港湾用地として利用されます。土砂とともに大量の水が送られてくるため、土砂を沈降させてから余水を海に放出し、環境保全をしています。



東京支店 令和4年度中央防波堤外側外貿コンテナふ頭岸壁地盤改良工事(その3)



▲地盤改良見える化

コンテナヤード建設予定地の液状化対策のため地盤改良工事を行いました。

- ※ICT施工の実施による生産性向上
- ・地盤改良機誘導システム
 - ・地盤改良見える化
 - ・土工のICT施工
 - ・GTL燃料を用いたCO2削減

▼地盤改良状況



交差噴流式複合攪拌工法にて27.8mの地盤改良杭を143本打設しました。



▲地盤改良後の様子



東京支店 (仮称)豊四季計画宅地造成工事



▲造成工事完了後、53区画の宅地になりました。



着工前は、住宅地に囲まれた約10,000㎡の工場跡地でした。低騒音・低振動の工法を選定し環境保全に努めました。





▲ (仮称) 東京都小平市御幸町③計画宅地造成工事



▲ (仮称) 東京都町田市玉川学園八丁目計画 宅地造成工事



▲ (仮称) 戸塚区前田町計画宅地造成工事

2022年度、小規模造成工事（請負金額：1億円以下）は10件竣工しました。



宅地の液状化対策として
I期工事では23,529㎡の敷地を
パワーブレンダー工法にて地盤
改良を行いました。
低騒音・低振動の工法を選定し
環境保全に努めました。
現在、157区画の宅地造成を
行っています。

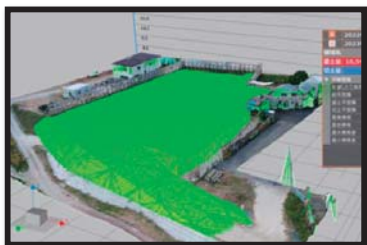
※尿素SCR搭載バックホウを
使用しCO2削減



▲2023年5月現在、擁壁築造やインフラ工事を行っています。



東京支店 R2多摩川右岸戸手地区高規格堤防整備工事



多摩川の増水による氾濫を防止するため、
軟弱地盤の地盤改良や、堤体盛土を行い、
高規格堤防の整備工事をしました。

※ICT施工の実施

- ・マシンコントロールシステムを活用した盛土の
施工管理で生産性向上
- ・UAV(ドローン)を活用した3次元測量で
生産性向上

高規格堤防とは：

土でできた緩やかな勾配の幅広堤防で、広くなった堤防の上は、
通常の土地利用が可能で新たなまちづくりを行えます。



東京支店 令和3年度千葉港葛南中央地区航路(-12m)付帯施設改良工事



▲バックホウ浚渫船

船舶の航路を整備するために
バックホウ浚渫船で約4,600㎡掘削
しました。

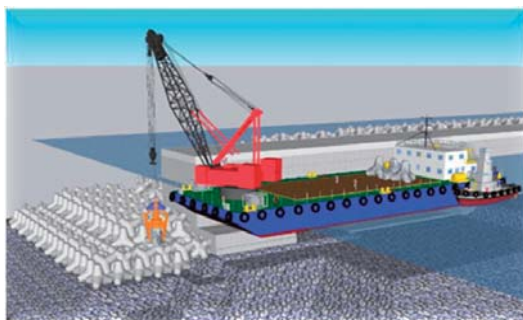
また、防波堤を延長するために
投入した基礎捨石及び被覆石は
藻類や生物が多く着生する様に
『フロンティアロック』という
人工石材を使用し、環境保全活
動に取り組みました。

▼藻の着生状況



▲フロンティアロック

中部支店 令和3年度下田港防波堤(西)消波撤去及び基礎工事

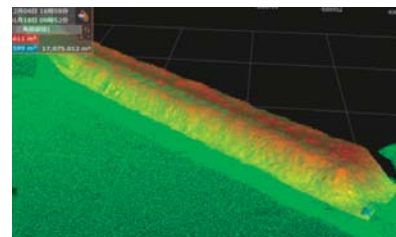


下田港内を、外海からの波浪影響を軽減するため防波堤を築造する工事です。先端基礎保護として仮置きしている消波ブロックを撤去し、未完成部分に再利用してその部分を完成させました。また、防波堤を延長するため基礎石を投入しました。

※ICT施工の実施

- ・マルチビームを使用した深浅測量による3次元施工管理で生産性向上
- ・MC-Gats捨て石投入システムによる効率化

中部支店 金城ふ頭護岸築造工事(その6)



名古屋港内の整備のために矢板式護岸を築造しました。

※ICT施工による生産性向上

- ・マルチビームを使用した深浅測量による3次元施工管理で生産性向上
- ・ソーラシステム使用によるCO2排出削減
- ・UAV(ドローン)測量での材料算出



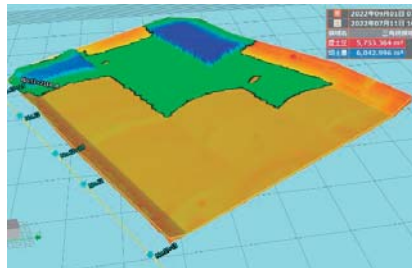
▲上部コンクリート打設状況



▲横断幕設置(安全意識向上)



中部支店 令和3年度 長良川福原しゅんせつ工事



長良川の洪水対策のために
ポンプ浚渫船で約52,000m³掘削しました。

- ※ICT施工による生産性向上
- ・施工履歴データ(3D進捗図)を用いて、日々の浚渫量の管理
 - ・ソーラーシステム使用によるCO2排出削減



▲排土・かき揚げ状況



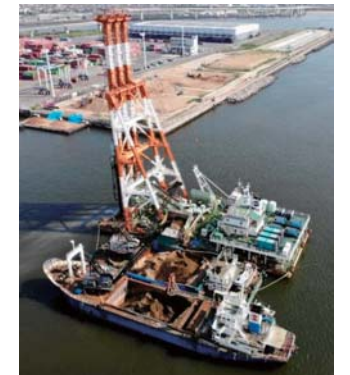
▲浚渫状況



中部支店 令和4年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)地盤改良工事



四日市港の物流拠点岸壁を築造するため、軟弱地盤を良質な砂に強制的に置き換えできる締固砂杭(サンドコンパクションパイル:SCP)工法で施工しました。
専用船(SCP船)にて施工したため、生産性向上や環境対策も充実しています。



▲サンドコンパクション船(SCP船)



三井アウトレットパーク滋賀竜王の臨時駐車場造成のため、約15,000㎡の森を伐採し駐車場の造成工事を行いました。

約22,000㎡の切土・約25,000㎡の盛土の施工を行いました。



▲調整池



▲鋼矢板打設状況

堤防の背後地を災害から守るため老朽化した堤防を耐震化改修し新設しました。



▲地盤改良状況



▲上部工築造状況

3種類の工法にて669本の地盤改良を行いました。



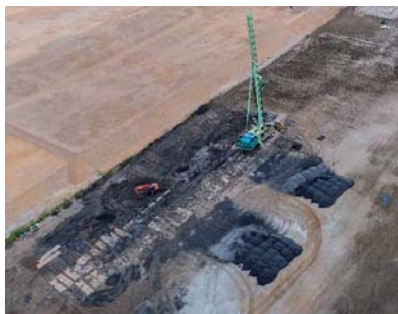
中国支店 国際拠点港湾 広島港 出島地区埋立3工区 地盤改良工事



広島港の約42,000㎡の物流ヤード増設予定地の軟弱な地下地盤の水分除去を目的に、ドレーン（排水誘導管）を打ち込み地盤改良する工事です。12,600本のプラスチックボードドレーンと1,700本のサンドドレーンを打設しました。

※環境対策の実施

- ・防音対策・粉塵対策等の環境保全
- ・ソーラーシステム使用によるCO2排出削減



▲サンドドレーン施工状況



▲プラスチックボードドレーン施工状況



九州支店 令和4年度 別府港(石垣地区)防波堤築造外1件工事



▲UAV (ドローン) 出来形測量状況

津波や波浪からの災害を防ぐために防波堤基礎工事として1函ケーソンを設置しました。

※ICT施工による生産性向上

- ・マルチビーム
- ・捨石投入管理システム
- ・ケーソン据付システム
- ・ブロック据付システム



▲被覆ブロック据付状況



▲ケーソン据付状況



▼削孔状況



液状化対策のために
DL-16.0mまで大量の注入ノズルを
地盤中に立体的に配し、そのポイントに
最適な圧力・流量で注入する超多点注入
工法にて地盤改良しました。

※環境対策の実施
・専門システム使用によるCO2排出削減

▼薬液注入状況



注入材を入れて
地盤内の強度や遮水性
を高めています。

▼ストッパーグラウト状況



注入材(瞬結)にて、削孔に
よる破損した防砂シート
の対策をしています。

過去の施工実績(再生可能エネルギー)

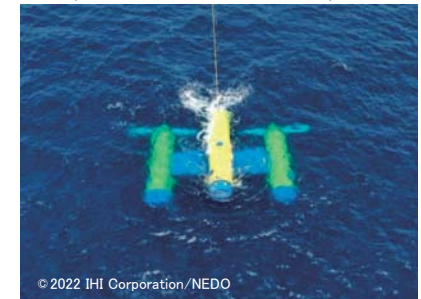
▼軽米東ソーラー新設工事・軽米西ソーラー発電所新設工事



▼兵庫・姫路メガソーラー
発電所新設工事



▼海上工事作業
(試験、海上輸送、撤去)



▼岬太陽光建設工事のうち土木関連工事 (A, B, C 工区)

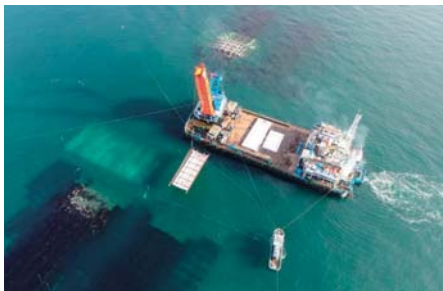


過去の施工実績(海上工事)

▼砂町開発 マリーナ水域埋立・護岸新設工事



▼胆振海岸保全工事
内白老東町人工リーフ建設工事



▼久慈港湾口地区防波堤（北堤）
築造工事（その3）



▼東京国際空港D滑走路建設他工事



▼令和4年度志布志港(新若浜地区)岸壁
ケーソン製作工事



▼川崎港臨港道路東扇島水江町線
主橋梁部（MP3）橋梁下部工事



過去の施工実績(陸上工事)

▼(仮称)西麻布三井ビルディング解体工事



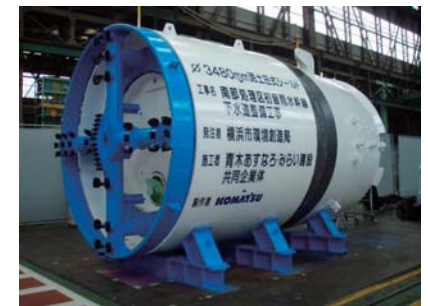
▼北陸新幹線 富山稲荷千歳高架橋



▼新名神高速道路
京田辺高架橋西(下部工)工事



▼南部処理区初音雨水幹線 下水道整備工事



▼新名神高速道路 大津ジャンクション西工事



▼横手西部農業水利事業
吉田幹線排水路(その16)工事





環境方針

みらい建設工業は、持続可能な社会の構築に向け、環境を大切に守り、自然環境の保全と創造に努め、また共生・再生を図りながら、確かな技術で環境に優しく創造的な企業をめざします。

活動方針

- ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを確立し、運用し、システムの有効性を継続的に改善します。
- 環境に関連する法規制および当社が同意するその他の要求事項を明確にして順守します。
- 環境目標を定めて展開し、実施結果に基づき定期的に見直します。
- 環境への取り組み
 - 環境負荷の低減及び汚染の予防のために、以下の活動項目を定めます。
 - ①省資源・省エネルギー・電力量削減に努めます。
 - ②再生可能エネルギー事業への参画を通じ、地球温暖化防止に努めます。
 - ③地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量の低減に努めます。
 - ④油類の漏洩、流出防止および海上・河川の濁りの防止に努めます。
 - ⑤土壌汚染の防止に努めます。
 - ⑥建設副産物の発生の抑制、再利用の促進、リサイクルの推進、適正処理に努めます。
 - ⑦より良い環境の推進に努めます。
 - ①環境に関する保有技術を積極的に活用し、有効な技術の開発を進めます。
 - ②環境にやさしい企画、環境配慮設計（提案含む）、施工を推進します。
- 地域住民との密接なコミュニケーションを図り、地域の環境保全に取り組みます。
- 環境意識を高めるための教育等を行います。
- 環境方針を一般の人々に公開します。

【参考】 2022年9月21日 国土交通省港湾局 「みなとSDGs」登録
2023年4月5日 環境省「エコ・ファースト制度」認定

当社、現場の環境活動「みらいスタンダード」取り組み実施中
みらいスタンダード取り組み内容

- ①施工現場の安全看板の設置（施工目的や施工環境など記載）
- ②太陽光システムを利用した仮設事務所の設置
- ③太陽光システムを利用した仮設トイレの設置（男女共快適トイレ）



エコ・ファースト企業としての約束

1. 2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現へ貢献

- 脱炭素社会を実現するための再生可能エネルギー事業に取組みます。
 - 1.再生可能エネルギー事業施工時のCO2排出量30%削減に努めます。
- 建設工事においてCO2排出削減に関連する技術の利用、有効な技術の開発を推進します。
 - 1.有効な技術の利用によりCO2排出量30%削減に努めます。
- 自然エネルギーの活用、低燃費型施工機械・低燃費型連絡車両導入、使用電力削減による温室効果ガスの削減を推進します。
 - 1.2030年度までにCO2排出量30%削減に努めます。
 - 2.2050年度までに温室効果ガス排出量ゼロを推進します。
- CO2削減効果を把握するとともに、ステークホルダーに積極的に情報提供・啓発を行います。
 - 1.2023年度よりスコープ3のCO2排出量の公表を行います。

2. 循環型社会への実現への貢献

- 建設発生材の再資源化への取組においてアスファルト・コンクリート塊、木くずの再資源化率99%以上を推進し、2035年までに再資源化率100%の達成を目指します。
- 社内オフィス内の分別徹底を行い再資源化を推進いたします。
- 環境パトロールにより取り組み状況をチェックし、廃棄物の抑制や循環利用を推進します。
 - 1.すべての施工場所において環境パトロールを実施いたします。

3. 生物多様性および生態系保全に配慮し自然共生社会への貢献

- 生物多様性保全に配慮し、生態系を維持するための環境配慮施工を推進します。
 - 1.すべての海洋施工場所において海洋汚濁防止に努めます。
 - 2.すべての施工場所の生態系保存に関する検討を行い保存に努めます。
 - 3.すべての施工場所において絶滅危惧種の保存に努めます。
- 環境意識を高めるための教育および社会活動の取組みを行います。
 - 1.社内教育や現場環境看板掲示にて環境意識の向上に努めます。
 - 2.環境ボランティア活動に積極的に参加し環境活動に努めます。
 - 3.現場見学会を通じて、地域の方・学生への環境教育活動に努めます。
- 環境にやさしい企画、環境配慮設計（提案含む）・施工を推進します。
 - 1.すべて施工において着手前に環境配慮の検討および提案に努めます。

みらい建設工業株式会社は上記取組みの進捗状況を定期的に確認し、環境大臣に報告するとともに、CSR報告書およびホームページによる公表を行って参ります。



環境目標・目的

2022年度の活動結果を報告します。

活動項目	目的
省資源・省エネルギー・電力量削減 	①TV会議・タブレット使用等によるペーパーレス化 ②電力量の削減 (カーボンニュートラルへの取り組み)
顧客満足度(社会貢献)向上 	①地域社会への貢献
建設副産物3R推進 	①現場における再資源の促進
水質汚染防止 	①海洋環境保全
脱炭素社会への取り組み 	①再生可能エネルギー工事の受注推進 ②CO ₂ 排出量の削減



環境目標結果

目標	2020年度 結果	2021年度 結果	2022年度 結果
①タブレット配布によるコピーの削減 ②電力量の削減	①タブレット配布によるコピー用紙の削減 ②電力量の削減	①タブレット配布によるコピー用紙の削減 ②電力量の削減	①タブレット配布web会議 ②再生可能エネルギー等の活用
①社会貢献度達成率：30%以上 *社会貢献度：公共工事評価点による地域貢献実施件数のうち有効件数の割合	①地域社会貢献度達成率：49%	①地域社会貢献度達成率：58%	①地域社会貢献度達成率：67%
①再資源化実施率：97% (再生処理量/全処理量)	①再資源化実施率：96.6%	①再資源化実施率：96.6%	①再資源化実施率：93.0%
①油流出事故発生件数：0件	①油流出事故：0件	①油流出事故：0件	①油流出事故：0件
①受注金額：13.5億円以上 ②ハイブリット重機・連絡車の導入：30%(2021年度目標継続)	①受注金額：8.8億円 ②HV連絡車導入率：32%	①受注金額：4.8億円 ②HV連絡車導入率：32%	①受注金額：0.3億円 ②HV連絡車導入率：47%



環境目標結果の根拠資料

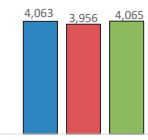
2022年度の活動結果の根拠資料をまとめました。

目標結果参照資料

【コピー用紙使用量】

	2020年度	2021年度	2022年度
使用枚数	1,145,711枚	1,044,420枚	1,093,481枚
売上高	282億円	264億円	269億円
1億円当り	4,063枚	3,956枚	4,065枚

コピー使用量推移

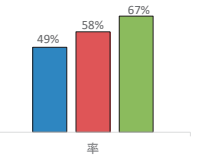


※過去3か年ほぼ横置き、タブレット使用を強化し削減に努めます。

【主な社会環境活動状況表】

活動内容	実施数	有効数
清掃活動	17件	17件
現場見学会	6件	6件
献血	2件	2件
その他	62件	34件
その他活動(例)地区学童交通誘導/騒音振動計設置 稚魚放流参加/現場説明看板設置など		
社会環境活動計	87件	59件
社会貢献度	67%	

社会貢献度達成率推移

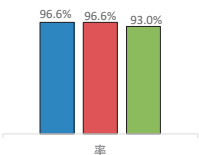


※社会環境活動の取り組みを継続し行って参ります。

【2022年度建設産業廃棄物排出・処理状況】

	排出数量(t)	最終処分量(t)	再生処分量(t)	リサイクル率
コンクリートがら	15,368	325	15,044	98%
アスコンがら	1,927	34	1,893	98%
建設汚泥	35,902	2,748	33,154	92%
木くず	1,488	237	1,251	84%
がれき類	683	153	530	78%
廃プラスチック	194	163	31	16%
その他	535	429	107	20%
計	56,096	4,087	52,009	93%

再資源化実施率推移



※目標97%達成に向け、処分場の再資源化処理基準の確認を行うとともに汚れや土砂混入を防止し、更に強化した分別排出を行って参ります。

【電気CO2排出量】

	CO2排出量
全社計	360t

【化石燃料CO2排出量】

	CO2排出量
全社計	330t

※2030年度までCO2排出30%削減に向け、2022年度よりCO2排出量を公表して参ります。



品質・環境活動

建設副産物の発生抑制、削減に関する方針

建設副産物の適正処理と分別収集により、混合廃棄物の削減を図り、再生率の向上に努める。

建設副産物の総排出量

	2020年度	2021年度	2022年度
コンクリートがら	80,391.73 t	12,629.39 t	15,368.44 t
アスコンがら	3,278.21 t	1,264.56 t	1,926.87 t
建設汚泥	306.14 t	23,032.83 t	35,901.55 t
木くず	1,447.12 t	1,263.55 t	1,488.04 t
がれき類	6,868.27 t	686.19 t	682.50 t
廃プラスチック	199.42 t	224.53 t	193.58 t
その他	1,233.76 t	1,049.15 t	535.36 t
計	93,274.65 t	40,150.20 t	56,096.34 t

年度により排出量の増減にはばらつきが見られますが、分別による収集・処分により混合廃棄物を削減して再生率を向上させ、今後も継続して3Rの推進と環境負荷の低減に努めていきます。

現場建設産業廃棄物分別



オフィスごみ分別

品質・環境活動 自社の環境教育



社員のスキルアップと技術の伝承
(若手現場教育)



工事の目的や内容を聞きながら、工事の様子を見学し、理解を深めました。



他社との合同研修に参加し、社内研修では得られない発見や新しい考え方を知る機会を得られました。



▲中技研 女性技術者現場見学会

品質・環境活動 自社の環境教育



階層別 社員教育



0.5・2・5年次研修
所長研修等
土木技術職を対象として、階層別に社員教育を実施しています。



▲外部の安全コンサルタントによる講習



事務系社員を対象に若手層
(入社1年目～4年目)
および中堅層に
(入社5年目～10年目)
外部講師をお招きして、社員教育を実施しました。



品質・環境活動 自社の環境改善



快適トイレの設置
(働き方改革)



基本的に全現場を対象として、現場で男女共に快適に使用できる快適トイレの導入を実施しています。

働き方改革の一環であり「みらいスタンダード」としてみらい独自の取り組みです。

品質・環境活動 自社の環境改善



現場の作業改善
(働き方改革)



休憩しやすい作業環境を創出することで、メリハリをつけて身体をリフレッシュすることができ、作業効率を上げることができます。

職員・作業員で飲食を共に行うことで、コミュニケーションの場にもなり、現場の雰囲気も良くなりました。



品質・環境活動 自社の環境改善



近隣への現場説明資料

(自然共生社会)の一環であり

「みらいスタンダード」としてみらい独自の取り組みです。



工事の内容を分かりやすく説明されている看板を設置し、近隣住民の方に工事内容を理解してもらう工夫をしています。

環境へ配慮した施工方法や設計を知ってもらうことで、環境活動への理解を深めています。



品質・環境活動 地域社会貢献



近隣への現場説明資料



▲パラリンアートアーティストが描いた作品を現場の事業説明看板と一緒に展示しました。



▲パラリンアート運営事務局より感謝状をいただきました。

品質・環境活動 地域社会貢献



環境ボランティア活動

▼環境教育活動



建設業とは何かを学生に説明するとともに、当社で行っている環境活動（温暖化防止対策等）も説明しました。

▼現場見学会



建設業のイメージアップや新たな担い手確保のため、現場見学会を実施しました。

品質・環境活動



現場で出会った動物たち



今後も環境活動に取り組んでいきます



品質・環境活動 地域社会貢献



環境ボランティア活動

プラスチックごみの海への流出を防ぐことを目的に、当社作業所職員と協力業者の方々が協力して清掃活動を行いました。

当社は、環境大臣認定の「エコ・ファースト企業」として、環境保全活動を行って参ります。



▲中部支店



▲本社・東京支店



▲九州支店

品質・環境活動 地域社会貢献



環境ボランティア活動

▼東京支店



▲北海道支店



▲中部支店



▲中部支店



▲九州支店

品質・環境活動 働き方改革



若手・女性・外国人材の活躍



若手所長の活躍
女性技術者の活躍
外国人材の活躍



品質・環境活動 働き方改革



若手・女性・外国人材の活躍



当社では、若手の働きやすい環境づくりや、女性や外国人材も活躍できる環境を整えています。



品質・環境活動 自社の環境活動



社長パトロール実施



社長が全国の現場を出張先で時間を見つけてはパトロールしています。

現場で働く職員と直接コミュニケーションが取れる機会になっていて、会社の現況や今後の方針など、現場に直接届きにくい話ができる良い機会になっています。

品質・環境活動 自社の環境活動



自社の環境活動への取り組み

当社は、SDGsおよびCO2削減の取り組みの一環として、使用済みの作業服・ヘルメットの回収を行っています。



▲回収した作業服は飛行機や車のシートの材料として生まれ変わっています。



▲回収したヘルメットは工場内で使用するクリーンエネルギーとして生まれ変わっています。

品質・環境活動 自社の環境活動



自社の環境活動への取り組み

GTL燃料は、燃料として初めて国土交通省が利用を推奨しているNETIS（新技術情報提供システム）に登録されています。



▲GTL燃料

天然ガス由来の製品であり、環境負荷の少ないクリーンな軽油代替燃料です。石油由来の製品と同等の性状を保持しつつ、軽油対比でCO2排出量を8.5%削減することが出来ます。

当社の環境への取り組みの一つである「脱炭素社会」の実現に向けて、環境負荷の少ない代替燃料を現場で採用しました。

品質・環境活動 自社の環境活動



自社の環境活動への取り組み

▼尿素SCR搭載バックホウ PC200



エンジンからの排出ガスに含まれる窒素酸化物（NOx）を、水と窒素に浄化するシステムが搭載されたバックホウを使用しました。

当社の環境への取り組みの一つである「脱炭素社会」の実現に向けて、環境に優しい施工を目指します。

◀アドブルー(AdBlue®)

排出ガスをキレイにするために必要不可欠な高品位尿素水で常温で保存できる、無色・無臭の液体

カーボンニュートラル



再生可能エネルギーの活用
(みらいスタンダード)



基本的に全現場を対象として、太陽光パネルや風力発電の導入を実施しており、事務所の電力を再エネ電力としています。

当社の環境への取り組みの一つである「脱炭素社会」の一環であり「みらいスタンダード」としてみらい独自の取り組みです。

カーボンニュートラル



再生可能エネルギーの活用
(みらいスタンダード)





SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「みらいの未来へ！GO」



事業所一覧

本 社	〒108-0014東京都港区芝四丁目6番12号 TEL : 03-6436-3710 FAX : 03-6436-3736
北海道支店	〒060-0051北海道札幌市中央区南一条東一丁目2-1 太平洋興発ビル TEL : 011-221-1292 FAX : 011-251-6953
東北支店	〒980-0014宮城県仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル TEL : 022-713-8016 FAX : 022-713-8019 青森営業所 〒039-1161青森県八戸市河原木字北沼51番地 TEL : 0178-21-2045 FAX : 0178-28-0549
東京支店	〒136-0071東京都江東区亀戸二丁目36番12号 エスプリ亀戸ビル TEL : 03-3682-8223 FAX : 03-3682-8848 茨城営業所 〒310-0803茨城県水戸市城南1丁目7番27号 香陵駅南ビル TEL : 029-306-9527 FAX : 029-306-9528 多摩営業所 〒197-0827東京都あきる野市油平98番地 TEL : 042-533-3156 FAX : 042-533-3157
千葉営業支店	〒260-0032千葉県千葉市中央区登戸一丁目23番16号 六羊ビル TEL : 043-302-5755 FAX : 043-302-5760
横浜営業支店	〒231-0002神奈川県横浜市中区海岸通四丁目20番地 F.bிடみなどみらい TEL : 045-681-2641 FAX : 045-681-1506
北陸営業支店	〒950-0916新潟県新潟市中央区米山二丁目4番1号 木山第三ビル TEL : 025-246-1336 FAX : 025-246-1337
中部支店	〒454-0804愛知県名古屋市中川区月島町6番1号 TEL : 052-618-8791 FAX : 052-369-1276 静岡営業所 〒421-0204静岡県焼津市高新田278番3号 TEL : 054-622-1122 FAX : 054-622-1642
大阪支店	〒531-0075大阪府大阪市北区大淀南一丁目4番15号 TEL : 06-6453-6931 FAX : 06-6453-6932 神戸営業所 〒568-0026兵庫県神戸市東灘区魚崎西町3-4-3号 TEL : 078-262-1532 FAX : 078-262-1533
四国営業支店	〒760-0007香川県高松市中央町11番12号 日成高松ビル502号 TEL : 087-863-6050 FAX : 087-863-6051
中国支店	〒730-0037広島県広島市中区中町9番12号 中町三井ビル6F TEL : 082-240-2020 FAX : 082-247-9080
九州支店	〒812-0036福岡県福岡市博多区上呉服町10番1号 博多三井ビル TEL : 092-262-8020 FAX : 092-262-8025 北九州営業所 〒801-0081北九州市小倉北区紺屋町4番6号北九州第一ビル807号 TEL : 093-541-1610 FAX : 093-541-1633 有明営業所 〒836-0067福岡県大牟田市四山町1番 TEL : 0944-53-1027 FAX : 0944-51-2398 沖縄営業所 〒900-0002沖縄県那覇市曙3丁目7番1号 TEL : 098-861-1602 FAX : 098-868-7382



ご意見やお問合せ先

CSR委員会事務局
〒108-0014東京都港区芝四丁目6番12号

TEL:03-6436-3716 FAX:03-6436-3741

 **みらい建設工業株式会社**